

夏休み経済教室 東京中学会場記録 8月20日(月) 東京証券取引所

お盆明け。東京は朝から残暑である。経済教室最後の、中学の先生向けの会は100人を超える先生方が集まり、熱心に講義や講演に耳を傾けていた。

第一時間目「中学教科書で教える経済の仕組み〈効率と公正〉」大杉昭英先生担当



講義する大杉先生と、大杉先生の問いに話し合う先生方

今年の大杉先生の講義は、東京が唯一である。先生は、まず新しい指導要領がなぜ必要になったのかを確認したいということから話をはじめた。以下その内容の要旨メモである。

1 学校教育で育成しようとするもの

知識と能力を育てることが使命

知識に関しては、OECDの「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに必要な能力を「主要能力（キーコンピテンシー）」として定義している

それを新学習指導要領でも踏まえている

コンピテンシーとは、上手くやっている人の思考や活動のパターンを観察して得られるもの そのなかの主要なもの

教育面では、A異質な集団で交流すること、B自立的に活動すること、C相互作用的に道具を用いることの三つがある

そのなかで本日は、知識を道具として用いるCを中心に話をする

その中核は、PISA型読解力である

次の問題を考えて読解力とは何かを確認したい。

例題：森林面積全体に占める自然林の低いところはどこか？（4ヶ所）

北海道、福島、東京、愛知、大阪、岡山、広島、佐賀が選択肢

歴史学習のまとめで使う事例

答え：佐賀、広島、岡山、愛知の四つ。背景は、焼き物とたたら製鉄、製塩で松を植えることがある。それをそれまでの学習できちんと理解しているかが問われる

2 中学校社会科公民分野の内容構成

冒頭に私たちと現代社会、そこで概念の枠組みを学習する

次に、私たちと経済で、経済の概念や理論を使って現代経済の問題を読み解く
イメージすると、最初の概念の枠組みはめがね（対立、合意、効率、公正）
それを用いて問題を考え、最後に持続社会の形成のために何をするかを考察させる
社会を読み解く基本概念は、対立と合意、効率と公正
なかでも、効率、公正は難しい
効率 社会全体で無駄を省く 内容的にはパレート最適である
公正 一人ひとりに配慮している みんなが参加してきめ、機会と結果が平等
教科書の事例：グランドの配分を巡るトラブル
それ以外の様々な事例：シングルライダーは優先させる
教材開発例：エアコンの配置と使用時間の配分
さらに、経済の授業では、誰に配分するかを巡って、財政政策や金融政策に応用したい
（社会のどこにお金があればよいかを考えさせたい）
公共的な判断の事例：アメリカでの授業例では、洪水で修復する時の補助金のつけ方を
考えさせるものがある

3 学習指導を考える

授業観を転換させる必要がある
それを具体的にさせるには、疑問形の学習テーマの設定をするとよい
どのような知識を活用して問題を解決するかがポイント
問の事例：二匹のタイが同じ大きさなのに値段が違うのはなぜ？
それに対する活動 資料、説明、知識を踏まえて解釈し、論述する
形式的に行うにはトゥール民図式を活用することを進める
どの知識を使って、どう考えたのかという頭の中の思考プロセスを外部化できる
最後のエピソード
広島時代の春の車窓からの風景、社会科の私と生物の先生との解釈の違い
概念の枠組みの違いが良く出ているのではなかろうか

質疑

- 1 効率の定義がわからない。資料の指導要領の定義と、大杉先生の定義の関連が分からない（要するに、パレート最適が理解できない）。
A：無駄を省くというのは指導要領の解説から。その後の「誰の満足も減らさず他の誰かの満足を増やすことができるのは望ましいことである」は補足したものである。この定義での、無駄をなくすという事例では、3つのいちごを二人で分ける例を考えると良い。足りないことより、余っている事例を考えるほうがよいのではないかと。

第二時間目「中学教科書で教える歴史<明治から昭和へ>」篠原先生担当



講義する篠原先生

1 はじめに

大学入試レベルにできる数学の問題は、中学なり高校なりで学ぶ定理を組み合わせたものに過ぎない。だから、論理だてて考えることはそれ程難しいことではない。しかし、これに比べて歴史の問題（理由）を考えることは難しい

その意味で、歴史は難しいけれど面白い、考えるものである

経済とは異なり、歴史はストーリーを作ることができる。それはメリット

逆に言うと、なぜそれが起きたのか「改革」を通して学ぶことができる

だから、経済を教えるより歴史は教材としては「楽」かもしれない

明治から昭和への経済の歴史を、中学校の教科書をもとに、私なりのストーリーを作って提示したい

2 江戸時代から明治の人口の変化

鬼頭宏推計

江戸時代の人口 上昇し途中（1700年以降）で停止する

明治以降 急速に上昇する

それは、経済が発展したからである その要因は何かをストーリーを作ってみたい

3 経済成長の要因

生産の三要素（土地、労働、資本）は古すぎる、本当に必要なのは次の三つ

①資本蓄積

②労働力

③全要素生産性（技術、生産インフラ、金融制度、規制、政治の安定）すべての生産要素をいかに有機的、機能的に結び付けられているか

このなかで明治期には、特に③の総合、「経済の仕組み」づくりが重要、しかしあまり注意されていない

ここから明治の経済を見て行くのが本日の講義のミソ

これに関しては、岩倉使節団の意義、重要性に注目したい

欧米の仕組みを学ぶ

政府と市場の仕組み、金融の仕組み、企業生産の仕組み、産業構造の考え方など

米欧回覧実記を時間があれば読んで欲しい

4 地租改正

これは経済の構造、特に財政面の大改革である。

年貢から金納に

(江戸幕府が経済政策で失敗したのは年貢制度が大きな要因である)

米や現物から金納へという政策を江戸時代に田沼がやろうとしたが失敗

地租は、明治政府の政策の財源になった

地租の比率 当初は 85% だんだん減る 76% 60%前後で推移

それでも 6 割以上が土地税から来ている

1870 年大久保利通が改革提言 準備を経て 1873 年条例作成

1880 年をもって完了

何を変えたのか

課税標準の変更

課税負担者が変わる

土地所有形態の変化は、資本主義体制の基礎の一つ (生産要素の私有化)

土地を担保とする貸借を合法化 (現在の金融のしくみの基礎)

地主階級へ参政権を与える

現在の土地制度 (登録など) の基本はここでできる

経済の仕組みを根本的に変えていった政策であると位置づけられる

5 インフラ整備

限界生産性が上がる状況 (設備をつくれれば生産が増える状況) では、この整備が重要 (現在の中国はこれ)

鉄道 物流が効率的になる

電信 情報が加速化

郵便 郵便貯金も含む

金融制度 明治期、この面ではややてこずっている

松方財政の重要性はある ただし、中学生にそこまで教えることはない

日本銀行の設立

一般の銀行の整理と統合

財政再建 (増税と歳費削減) をやりデフレとなった

技術移入

教育制度

身分制度 自由な労働移動ができるようになった (戦後の集団就職も生産性の低い農業から生産性の高い工業へ絵の労働力の移動であった)

これらの改革は、薩摩藩 (調所広郷、大久保利通、松方正義など) の系譜が大きな功績

6 富国強兵政策、殖産興業政策

戦後の産業政策と対比をさせて理解するとよい

工部省 お雇い外人、留学生、鉄道、汽船、造船、鉱山、官営工場（富岡製糸工場など）後に廃止

内務省の設置 警察から産業政策まで全て持つ

紡績業の発展（大阪紡績など）ここから様々な関連の産業（織機など）が生まれる

製鉄業（官営八幡製鉄）日清戦争賠償金で建設

7 日露戦争の戦費調達

戦費見積もり 4億5000万円（うち海外へ支払う分が1億5000万円）

高橋是清の功績 日銀には5000万円しか正貨がなかった

当時日銀副総裁であった高橋是清が、ロンドン、NYで調達した

まとめ

時間がきたので今回はここまでとする

ストーリーで見るのが重要、それを強調したい

質疑

1 地租改正のモデルはあったのか？

A：詳しくは知らない。なかったのではなかったか。

2 製糸業はどうなのか？

A：基本的に紡績と同じことではないか。輸入代替をして成功した事例と言えるのでは。

第三時間目「授業提案：体験的授業の試み」三枝先生担当



提案する三枝先生

資料は、広島、大阪と同様なので、広島会場の記録を参照されたし。

進め方として、建築企業のゲームのなかから事例二つ（どんな関連の仕事があるのか、どんな会社を作るのかを選択）を、ペアになった先生方に実際に取り組んでもらいながら体験的授業の実際と意義を説明した。

東証の「会社をつくろう」の資料（ミスターXの挑戦）の紹介しながら話をまとめた

栗原先生（東洋大学）のコメント

20 ポンド紙幣は、裏がアダムスミス、こんな実物教材もよいのでは
今回のコメントは、

1 体験を通しての授業のすすめ

2 教材の考え方 という二つに絞る

教材は多い、しかし、封をきらない、目的を読まない、試しにやらない、がハードル
ちょっと勇気があって試みれば、授業が変わる、生徒が変わる、教師が変わる

3 経済の授業を教えることの難しさ

半世紀前でも、長洲の指摘がある

何を教えるかが一致していないと言う 現在も指導要領はあってもなかなか一致しない
体験型授業でも同じ、ねらいを明確にして、手段としての体験型の授業を試みる

4 はいまわる経験主義の危険性

面白かった、それでおしまいではだめ

体験をしても学習するとは限らない

ぶらんこの体験をしたからといって振り子（物理理論）が分かっているわけではない

教師が問いをたてて、実験をやって、それを確認するというプロセスが必要

それが授業である

確認したいが、教材は手段である 見通しをたてて取り組んで欲しい

第四時間目 「経済学が面白い」松井彰彦先生担当



講演で問題提起する松井先生

はじめに

もし自動車保険に入るとすると

保険1 5万円までは全額自己免責、それ以降は保険でカバー

保険2 1500万円までは3割負担、それ以降は保険でカバー どちらを選ぶ？

(圧倒的多数は1、2は数名)

解説はあとで行いたい

1 自己紹介

転校生であった 転校経験が自分をつくっている

理論経済学、ゲーム理論が専門 市場経済のミクロ的基礎理論が最近の専門
社会的障害の経済分析（障害、長期疾病、児童養護、被災地）に取り組む

2 経済学って何？

こんな問いや質問を良く受ける

- ①儲けるための学問でしょ？
- ②市場経済のせいで格差がひろがったでしょ？
- ③経済学には愛がない！
- ④ゲーム理論？楽しそうでいいですなあ。 という反応を頂く

反論に、ヒュームの言葉を紹介したい（「人性論」の導入部）

「数学、自然哲学、自然宗教も人間の科学である。これらの学問は人間の認識につながる。そうだとすれば、人間の本性に密接につながる科学分野は何をかいわんや」

中高までの経済学＝経済を分析対象とする学問に位置づけられているようだ

大学の経済学＝どちらかというとももの見方にシフトしている

アダムスミスの言葉を引用する（「道徳情操論」より）

「人間社会という巨大なチェス版で、各人のコマがそれ自身の行動原理に従う。」
為政者が動けというどおりに動くのではなく、各人が各人で動くのが経済である
教科書でもスミスの精神を受け止めたものがある

日本文教出版「経済の学習を大きくとらえよう」これはいい

3 まずは市場の話から

新美南吉「手ぶくろを買いに」

手ぶくろを買いにゆくこどもきつね 右手を出してしまう

お金をうけとり、手ぶくろを渡す店の人

人間って本当にそんなに信じられるのか？と母親

一つの読み方、人間と動物

もう一つの読み方、どんな人でもきちんとしたお金をだせば取引成立

市場は弱肉強食ではなく、市場のルールを認識して、そのうえで取引する場である

それをつたえてゆく役割がある

人と人とのつながりの場が市場である（図参照）

大震災のとき、市場がなくなってしまった ものが入らなくなった

市場はつながりの場であることが実感

二宮尊徳の言葉「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」

経済学の語源を考えるとそれがよくわかる

ギリシャのオイコノミス（オイコス＋ノモス）共同体の秩序と訳せる

ルネッサンス以降、**political economy** に、慶応三年日本に輸入、経国済民という言葉
があり、それを経済として経済学が成立

4 中学の教科書から①

冒頭のきまりの評価と変更 経済にも使える

決まりって何？

まずはきまりをおおきくとらえてみよう

個々人の行動原理と社会全体を調和させる手段

例：医療保険制度 なぜ保険証がないと医療費が高いのでしょうか？

会場からの答え、保険料で医療費をまかなうから

ここで終わってはもったいない

医療費の3割負担はなぜ？

次の事例で考えてみたい、慢性骨髄性白血病と「命の薬」

患者数 8000 人

三年前に新薬グリベックが開発され「命の薬」となった

しかし、1錠 3200 円の錠剤を毎日 4 錠服用する必要

高額医療費制度を使っても、自己負担が数十万、一生服用する必要あり

かなりの経済的、心理的コストがかかる

こんな場合にどう 3 割負担を考えるか？

ここで、最初の問題に戻る

保険どちらがよいか 1500 万円はグリベックのケースで算出した (50 万円×30 年＝1500 万円)

対応の例

短期的には、特定疾病に指定して医療費を無料にする

中期的には、医療保険制度の見直し しかし経済的な障壁は残る

長期的には、長期疾病者と障害者を一体的にサポートするしくみの確立

ここで浮かび上がるのは、制度の隙間が問題に

制度は健常者をまず対象にする

次に範囲を広げる だんだんひろがる

必ず、漏れる人がでてくる、その一つが疾病者、障害者

そういう隙間に光を与えるのが経済

5 中学の教科書から②

企業競争の役割

競争のメリットを教えるには

競争がなくなった状態 自動車保険 v s 医療保険

医療保険を競争下に置いたらどうなるかを考えさせるのもよいのではないか

教科書では、独占、カルテル、公正取引委員会もでてくる

これらをゲーム理論で考察してみる

ゲーム理論とは、人間関係を論理的に考える科学

ノイマンとモルゲンシュテルンが 1947 年に共同で開発
経済学にマッチして、経済学への応用で今日まで発展をしてきている

ゲーム理論の黎明期

最初はゼロサムゲーム じゃんけんと同じ

ゲーム理論の発展期

囚人のディレンマ そのストーリーの紹介 これはノンゼロサムゲームである
自分がかわいいために、お互いが共倒れになってしまう

冷戦時代の米ソの軍縮、軍拡の事例

企業の価格競争 安売り合戦なども事例

カルテルはその事例になる 談合の経済的損失では公共工事では 2 から 5 兆円

独占禁止法で「ずる」をする企業を罰する

この先にゆくと

ずるに対して発覚したら課徴金を課す（売上の 10%相当） 通報する、しない
ところが、課徴金では長い間通報がなかった（利得図を参照）

通報する しない

通報する 0, 0 0, 0

通報しない 0, 0 2, 2

近年導入されたのが、リニエンシー（措置減免制度）が導入

最初の通報者 100%免除

2 番目まで 50%

3 番目まで 30%（現在は 5 番目まで）

ファックスで順番を決める

これは囚人のディレンマに相応（上の利得図が下のようなになる）

2, 2 -1, 3

3, -1 0, 0

こんな裏切りを誘導するゲームは日本ではできない、との声が多かった

独禁法改正 2006・1

談合自首、減免適用申請がその年の 3 月（水道バルブの事例）成果はあがった

談合は、仲間内は得するかもしれないけれど、消費者の犠牲の上になりたっている（商
道徳に反している）

コンプライアンスをしやすくする制度

5 年たって、カルテルは芋づる式に摘発されはじめている（12 年 6 月 18 日、日経）

そもそも独禁法は、市場で企業が守るべきルールを定めたものであることを確認した
い

しかし現実には、減免適用申請するのは大企業が多い、大企業だけ逃げて、体力のない
中小企業がペナルティということも多い

まとめ

最初の問題に戻ると、それぞれの反応に以下のように答えたい

- ① 経済学は経世済民の学問である
- ② 市場の本質は見知らぬどうしをつなげるもの
- ③ 愛は人間が吹き込むもの、経済学は手段、これを使って人間に何ができるかを考えるのが肝心
- ④ ゲーム理論は楽しい

質問

1 リニエンシー制度に関して？通報した企業は名前をあげられないのか？

A：自首は匿名。

2 冒頭の保険の結論は？

A：自動車のケースは健康保険を基にしている、難病のケースで自分の判断を振り返って欲しい

3 いじめの問題をゲーム論で解決することは可能か？

A：差別から偏見が生まれる可能性がある。いじめだけでなく、障害者の隔離の問題なども同じである。ゲーム論で言う悪い均衡に陥っている。論理的に考えてゆくことも大事であるということである。